



New Partnership

第7号 平成2003年8月1日 安足教育事務所ふれあい学習課

TEL.0283-23-1471 FAX.0283-23-4274 mail:ansoku-kyouiku@pref.tochigi.jp

「安足のふれあい学習」一層の充実のために

安足教育事務所長 寺岡 篤

昨年4月に完全学校週5日制がスタートし、小・中学校の
新教育課程が本格実施され2年目を迎えました。ご存知のよ
うに、新しい学習指導要領のねらいは、子どもたちに基礎・
基本をしっかりと身につかせ、それを基に、自ら学び考え
る力などの「生きる力」を育むことにあります。各学校にお
いては、新学習指導要領のねらい達成のために、様々な実践
を行ってきているところであります。本年度は、まさに教育
改革の真価が問われる年となり、各学校とも昨年度の成果や
課題を検討し改善を加え、子どもたちの「豊かな心」や「生
きる力」を育むために取り組んでいます。

さて、子どもたちは7月19日から夏休みに入りました。
生活の中心が学校から家庭や地域に移り、それぞれの地域で
いろいろな活動に取り組んでいるところです。子どもたちは
いろいろな活動を通して、多くの人とかかわりながら様々な
体験をして、少しずつ成長していくものであると思います。
今年の夏休みも多くの人たちとのかかわりの中で様々な活
動や体験ができることを期待しています。

ところで、子どもたちの生活スタイルは、社会の急激な変
化に伴い大きく変化し、子ども同士や子どもと大人のふれあ
う機会が失われつつあります。そのため、社会的な体験の場
や自然環境の中で、自らの知恵や工夫を凝らして生活する体
験が不足していると言われています。

そのような状況の中、それぞれの地域において心豊かな子
どもたちを育成することや、地域の連帯感や豊かな人間関係を

構築していくことは、重要な課題の一つであります。

安足教育事務所ふれあい学習課では、平成13年度より、
ふれあい学習企画委員の皆様や2市2町教育委員会の皆様
と手を携え、ふれあい学習による「子どもを核にした豊かな
人間関係や地域づくり」を推進しています。昨年度、安足管
内の推進地域として指定を受けました佐野市犬伏東地区、葛
生町常盤地区、田沼町戸奈良地区、足利市矢場川地区の4地
域には、積極的に取り組んでいただき、すばらしい成果を挙
げていただきました。これらのふれあい学習の活動に参加さ
れました方は、大人と子どもを合わせまして述べ4500人
以上に達しています。本年度は4地域の引き続いての活動と
ともに新たに3地域、1団体が加わって活動が展開されるこ
ととなりました。それぞれの地域の成果を踏まえ、子どもた
ちの「豊かな育ち」のための環境と、「学び合い」と「豊か
な人間関係」に支えられた活力のある地域づくりを目指し
て、一層「安足のふれあい学習」を推進していきたいと思っ
ています。

「安足のふれあい学習」を充実・発展させていくためには、
2市2町の教育委員会を始め、地域の皆様方のご理解ご協
力が不可欠であります。また、それぞれの地域で、素晴らしい取
組をしていただいておりますが、これらにつきましても充実
させていくためには皆様方のご協力ご支援が必要でありま
すので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

心ふれあう地域づくりをめざして (4)

～もう一つの「生きる力」～

日本の人口は急速に高齢化し、平均寿命が女性85歳、男性78歳を越え大変な高齢社会になっています。このような社会となり、「リタイア後の第二の人生をいかに生きるかがとても重要なことである。」との話題にふれることがあります。これまでの学校教育の中では、人生の設計は常に中学や高校、大学といった学校の出口のところだけが課題とされ、希望や期待に添った学校へ進み、より高くより良いとされる学歴を獲得することにより、その後の人生の豊かさをも保証されると考えられて来たように思います。

しかし、将来を予見することが困難な経済状況や20年以上も続くリタイア後の人生を考えたとき、今の教育制度の中で、いかに心豊かな生き方を学ばせるかそして体験させるかが、将来心豊かに充実した人生を味わわせるために重要なことではないかと考えるようになりました。これからは、第一の人生をいかに生きるかを主眼としてきた教育の基軸を、80余年の人生を健康でいかに充実して生き抜くかの「生きる力」をはぐくむ方向に移さざるを得ないように感じています。このことには、医療保険や介護といった今日的な課題解決の一端も内含しているように思います。

学校や家庭、地域が互いに手を携え、芸術や文化に親しみ味わうことやスポーツの楽しさを味わわせること、また、ボランティア活動、社会体験活動を豊富に提供し、その中で子どもたちに達成感を味わわせ、人間関係を築くことや他者のためになるような苦労と努力を体験させるなどを通し、「第二の人生」に生かすことのできる「生きる力」をはぐくむことが求められていくことと思います。

今、学校で取り組んでいる総合的な学習の時間や生活科、また、地域と学校が一体となり推進している「子どものための地域づくり」等で、子どもたちに芸術や文化、スポーツなどを通して豊かな学びの機会を提供してくれる方々には、趣味や特技をさらに磨き、第二の人生を見事なまでに充実させ、心身共に健康で充実した人生を過ごしているボランティアがたくさん見受けられます。

この度ふれあい学習に携わるようになり、子どもたちに「生涯をいかにたくましく生き抜くか」の生き方を、より多くの大人がかかわって学ばせることのできる、学校を含めた地域社会の学習環境を整えていくことが、私たちの責務かもしれない。と感じております。

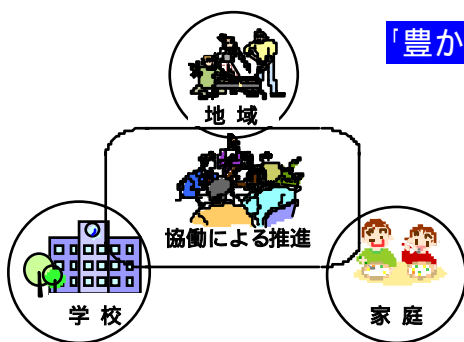
地域と学校の協働によるふれあい学習を目指して

「安足のふれあい学習」-子どもを核にした地域づくり-

子どもたちの「生きる力」や「豊かな心」を育み、地域で子どもたちの豊かな育ちを支えるためには、私たち大人が、地域の中に「豊かな育ち」のための環境をつくりたり地域で子どもを育てる意識を高めなければなりません。

安足教育事務所では、地域の皆さんや学校との協働により、地域における子どもと大人の交流や学びなどの様々な活動をとおして、次代を担う子どもたちのこれからの人生を支える「生きる力」や「豊かな心」を育み、地域における子どもたちの豊かな育ちとそれを支える家庭や地域の教育力を充実させ、豊かな人間関係に支えられた地域づくりを目指します。

子どもたちの「豊かな育ち」のための環境と



「豊かな人間関係」に支えられた活力のある地域コミュニティとは

- ・地域の中に豊かな人間関係がある。
- ・地域の中に学び合いがある。
- ・地域の中で自分を生かせる。
- ・地域の中に子育ての空間がある。



そのために

- 地域で子どもを育てる仕組みづくりを進めましょう
- 地域でふれあい学習の活動を進めましょう

ふれあい学習を進める地域の活動4つの視点

- 1 家庭の教育力を高める活動
子育て中の親の交流、青少年の子育て体験、「子育て」について学ぶ活動など
- 2 地域の教育力を高める活動
家庭教育を地域で支援する、伝統的生活文化の伝承、青少年育成について学ぶ活動など
- 3 心豊かな青少年を育てる活動
子どもたちの異年齢交流、自然体験や生活体験、地域の伝統文化の継承活動など
- 4 ふれあい学習を総合的に進める活動
世代を越えて子どもと大人が交流する活動、ボランティア活動やまちづくり等地域活動、スポーツや文化活動、地域の様々な課題について学ぶ活動、学校と地域が連携や融合して行う活動など



地域で子どもたちを育て、子どもたちと共に地域づくりを進めるために

- 1 大人が、子どもを育てる環境づくりや子育てを考える懇談会や学習会を開きましょう。
独自に開催したり、PTA事業、家庭学級や公民館の学級講座等と連携して
子育てや家庭教育に関すること、地域活動の計画等必要に応じたテーマで
- 2 地域内の公民館や育成会等各種団体と連携し、今まで行ってきた地域活動、今計画している行事等をふれあい学習の視点で充実しましょう。
同じような趣旨の活動を連携したり融合し、協働で
自治会、育成会、PTA等と連携し、「あいさつ運動」「地域の美化清掃等のボランティア活動」等日常的に継続的にできる活動を
総合的な学習をはじめとする学校支援のためのボランティア活動を
できるだけ計画の段階から子どもの参画を
障害をもつ子どもたちの参加にも配慮を





ふれあい学習情報コーナー

ふれあい学習の推進と充実を目指して

- ふれあい学習企画委員会と子どものための地域づくり推進地域 -



今年度もふれあい学習企画委員会を中心に、管内におけるふれあい学習の推進を図ります。

6月13日に開催した第1回委員会では、ふれあい学習推進概要と取組の重点、各市町における推進等協議しました。また、昨年度、総合教育センターで行われた栃木県教育研究大会での発表の際に、養護学校の先生より要望のあった障害をもつ子どもたちの地域活動参加に向けて、足利中央養護学校田村教頭先生をふれあい学習企画委員会にお迎えしました。

企画委員については、以下のとおりです。



企画委員(敬称略 アンダーラインについては、推進地域代表)

佐野市：秋山浩一、小野田正一、福田恵介、亀山幸男	葛生町：田澤テル子、初山マサ子、廣瀬恵子、青木智
田沼町：中村圭佑、渋江芳夫、亀山洋道、尾花勝司	足利市：小泉悦彦、太田康夫、大美賀一雅、寺内千明
学校代表：富岡律子、車塚己喜雄、田村澄子	唐沢青年の家：井澤一男

子どものための地域づくり推進地域の代表者による会議も同日に開催、推進の在り方等を協議し、今年度の企画委員の地域や団体の実践と管内8地域での取組が始まりました。

推進地域： 佐野市犬伏東・吾妻地区 葛生町常盤地区・エクボの会
田沼町戸奈良・北部地区 足利市矢場川・三和地区



連合会議各市町協議



田沼町北部地区推進会議



葛生町エクボの会



足利市矢場川地区

ふれあい学習で生涯スポーツを考える

人は自分で自分のバランスを整える力がある！

病気になると免疫機能が戦う体制になります。切り傷には、いつのまにか、かさぶたができています。暑いと汗をかいて皮膚温度を下げ、寒いと鳥肌を立てて体温の放出を防ぎます。私たちの身体には、もとの状態に戻ろうとする本能的な力が備わっています。これをホメオスタシス(自己恒常性)と呼び、日々、さまざまなストレスによって鍛えられています。

ストレスとは、本来、私たちを育ててくれるもの、そう！ホメオスタシスを向上させてくれるものなのです。そして、これからの現代社会でうまくストレスと友達になるためにも、心と体の声に耳を傾けてあなたが赤信号になる前にうまく対処して、ストレス耐性を強化しましょう。



地域で進めるふれあい学習

安足地区人権教育指導者一般研修

認め合い支え合う共生のまちを目指して
～外国人から見た人権～



すべての人々が人権を享有し、平和で豊かな社会を実現するためには、私たち一人一人の「人権」がお互いに尊重されること、すなわち、「人権の共存」が求められています。

私たちが暮らす社会を「人権の視点」で見回してみると、国際化、情報化、高齢化、少子化等の社会の急激な変化に伴う様々な問題が出てきています。私たちが、暮らしの中で「かけがえのない存在」として個人を尊重すること、自分らしく生きるために個人の能力を発揮するためにも、人権尊重の精神の涵養が求められています。

そこで、シンポジウムでは、外国人から見た「日本人の人権」を視点として、人権啓発映画「この街で暮らしたい」を見た感想をもとに、日本で暮らす外国の方、外国人の相談を受けている方、外国で生活した方々から、経験や経験を踏まえた様々なご意見・提言をいただきました。

- 日本人から外国人にもっと近づくこと、日本人は外国人の良いところを見習うことなどを通して、人を人として認め合う社会をつくっていくことが大切。
- 困っている人を助けることから人権を大切にできる心が育つ。特別なことをするのではなく、日常生活から考え実践できる人権尊重の精神を定着させたい。
- 家族の絆を大切に、家族の中でお互いを尊重し合うことが一人一人が尊重された社会、だれもが心地よい社会を築いていくことにつながる。
- 一人一人違った国・文化・人格をもった人間として対等に接することが大切であり、外国人が日本人のネットワークを利用できるよう援助する必要がある。

人権は、特別な機会に特別なこととして特別なやり方で学習するのではなく、日常生活の中における人と人のかかわりの中で「人権」について考え、お互いの人権を大切にしたい行動をとることが大切であるということが、シンポジストに共通した願いでした。この研修を通して、足元から人権を見つめ直し、家庭や地域で何ができるかを考え、実践への意欲を高める機会となりました。

6月5日(木)、佐野市文化会館小ホールにおいて、308名の参加者を得て、上記研修を開催しました。

== プログラム ==

人権作文発表

「新しいお友だち」

佐野市立犬伏東小学校
3年 伊澤美沙紀さん

人権啓発映画視聴

「この街で暮らしたい」
人権シンポジウム

・コーディネーター

安足教育事務所 清水武治

・シンポジスト

佐野市：太田絹子さん

葛生町：長 雅之さん

田沼町：片山真美さん

足利市：小林 廣さん



P T A 指導者研修

豊かな心を育てる P T A 活動

P T A リーダーのためのコミュニケーションスキル

コミュニケーションの難しさは、私たちの生活のさまざまな

場面で感じる永遠の課題といっても過言ではありません。P T

A 活動の指導的な立場になればなおさら、会員相互のコミュニケーションを円滑にすることは重

要な課題となります。そこで、宇都宮大学生涯学習センター助教授、佐々木英和先生を講師にお迎えし、「コミュニケーション」をテーマに、現場ですぐに活用のできる具体的な手法を体験する研修を行いました。

佐々木先生の考案したコミュニケーションスキル(ゲーム)は、特別な道具などを必要とせず、近くの人と2人組で簡単に実施できるものばかりでした。ゲームのあとは、先生の研究の一端を身近な事例を入れながら、分かりやすく説明していただきました。会場にはたくさんの笑顔があふれ、終始なごやかな雰囲気が進められ、「コミュニケーションの基本は、相手の

話を聞くことから始まるということが分かりました。」などという声がたくさん聞かれました。

最後に、この研修に参加した方達が、今回学習したコミュニケーションのゲームを自分の所属で活用し、あたたかいコミュニケーションの輪をさらに広げていくことが重要であると確認することができました。



やってみよう！名前ほめゲーム(2人組で)

- 1 カードに自分の名前を書きます。
- 2 相手に自分の名前について語ります。(気に入っているところや、名前の由来など自由に。時間を30秒とか1分とか決めておきます。)
- 3 相手の話を黙って聞いたあと、相手の名前をほめます。
- 4 どんな感じがしたか、ふりかえります。